

# 8 環境保全の取組み

水道事業は、取水・浄水・配水の工程において多くのエネルギーを使用しています。このため自然の恵みを受けて事業を営むものとして、環境保全に努める責務があると考えており、脱炭素社会の実現に向けた取組みとして、再生可能エネルギー由来電力の調達をはじめ、再生可能エネルギー発電設備の導入などを実施していきます。



## 再生可能エネルギー導入等の推進

### 再生可能エネルギーの導入

水道施設の環境負荷低減を図るため、これまで再生可能エネルギー発電設備を計8施設で導入しています。今後も脱炭素社会の実現に向けて更なる導入拡大に積極的に取り組んでいきます。

●導入実績

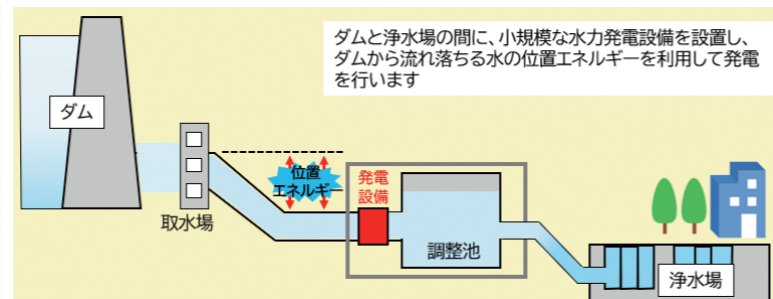
施設名称	予定発電量(kWh)	供用開始	施設名称	予定発電量(kWh)	供用開始
瑞梅寺浄水場(小水力発電)	187,000	平成23年度	別所接合井(小水力発電)	250,000	令和5年度
夫婦石浄水場(太陽光発電)	62,000	平成23年度	多々良浄水場(太陽光発電)	262,000	令和7年度
水道局庁舎(太陽光発電)	2,000	平成24年度	多々良取水場(太陽光発電)	85,000	令和7年度
乙金浄水場(小水力発電)	633,000	平成26年度	合計	2,021,000*	
曲淵ダム(小水力発電)	540,000	平成29年度			

※予定発電量(合計)は、一般家庭の約560世帯分の電気使用量に相当し、CO<sub>2</sub>削減量は約900tです。

### ●太陽光発電



### ●小水力発電

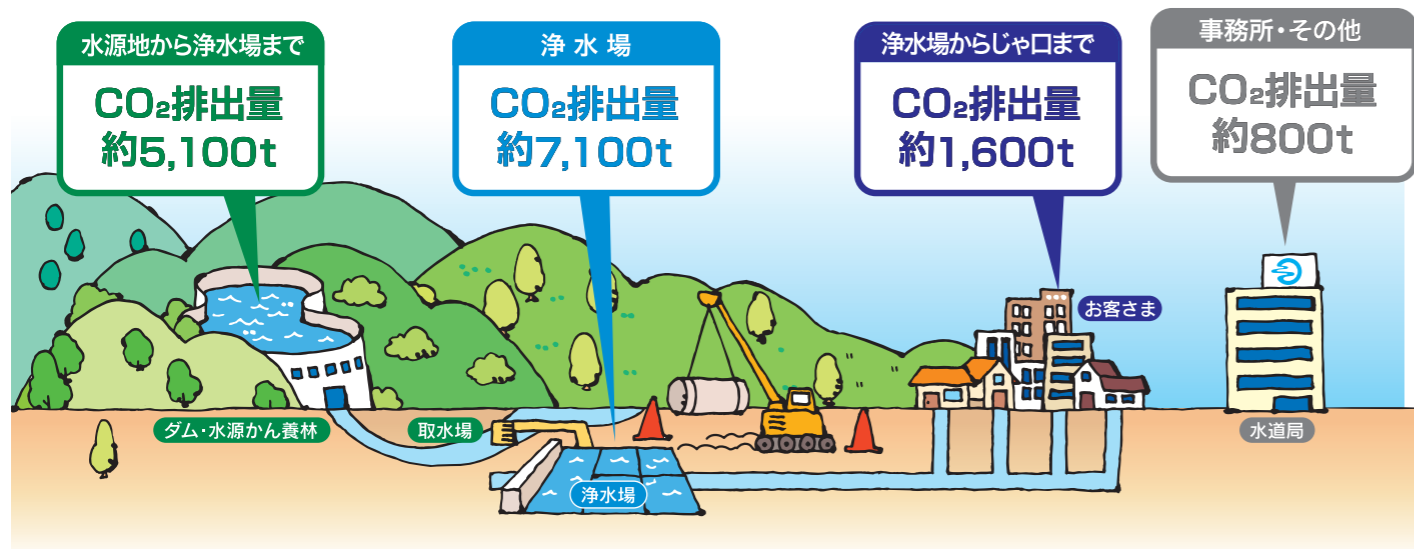


### 再生可能エネルギー由来電力の調達

浄水場や庁舎等の水道施設におけるCO<sub>2</sub>排出量の98%は、電力使用によるものです。脱炭素社会の実現に寄与するために、水道施設で使用する電力を、再生可能エネルギー由来電力で調達します。



### 各施設における再生エネ由来電力未調達時のCO<sub>2</sub>想定排出量



# 9 国際貢献・国際協力



## 国際貢献の取組み

「節水型都市づくり」を通して培った水の有効利用に関する技術を活かして、アジア等の開発途上国への職員の派遣や海外からの研修員の受入れなどによる技術協力を行っています。また、このような国際貢献活動を通し、職員の人材育成や地場企業等への海外ビジネス機会の提供にも取り組んでいます。

### 国際貢献の目的

- 開発途上国の給水環境の改善  
開発途上国への職員の派遣や海外からの研修員の受入れ、Web会議による遠隔支援などを通して、現地の漏水や水圧不足による断水などの問題解決に取り組むことで、給水環境の改善に寄与しています。
- 水道局職員の人材育成  
技術協力を通して、かつて福岡市が取り組んできた課題に改めて取り組むことにより、職員の水道技術や知識のさらなる向上を図り、広い視野を持った人材を育成しています。
- 地場企業等への海外ビジネス機会の提供  
地場企業等の海外ビジネス支援に取り組むことで、ビジネス機会の提供による地域経済の活性化だけでなく、福岡市と民間企業が協力し、開発途上国の都市問題をより効果的に解決することができます。



### 国際貢献の実績

- 技術者の派遣  
昭和62年のマレーシアへの長期派遣を皮切りに、これまで14カ国へ延べ225人(令和7年度末時点)の職員を派遣しています。現地では福岡市の水の有効利用に関する技術指導をはじめとした様々な支援を行っています。
- 研修員の受入れ  
JICA(国際協力機構)などからの要請を受け、これまで延べ839人(令和7年度末時点)の海外研修員を受け入れ、研修や視察を実施しています。その際は、福岡市水道技術研修所を活用し、実践的なトレーニングも実施しています。
- 海外ビジネス機会の提供  
海外から研修員を受け入れた際、福岡市国際ビジネス展開プラットフォーム会員企業の高度な技術や品質の高い製品を紹介する場を設けるなど、地場企業等に対して、これまで延べ78件の海外ビジネス機会を提供しています。

